



# なぜ勉強をするのでしょうか？ その答えは……。

学校長 横山 豊

本校で、私が中等部の教頭を務めていた頃、3年生の生徒たちを東京の大学へ見学に連れて行ったことがあります。国公立大学の代表として東京大学を、私立大学の代表として慶應義塾大学と早稲田大学を見学しました。

その際、早稲田大学では、本校の教員の高校時代の友人であった教授が案内してくださいました。その方が、生徒たちにこんな直球の質問をしました。

「君たちは、幼稚園(保育園)から始まり、小学校、中学校と勉強をし続けてきました。そして、これから高校、大学、さらに人によっては大学院でも学ぶかもしれませんが、なぜ、君たちはそのような勉強をしていくのですか。」

さあ、君たちがこの場にいたとしたら、どのように答えたいでしょうか。本校の生徒たちはめいめい考えて、それなりに良い解答を言いました。しかし、教授の模範解答にはとてもかないませんでした。教授はこのようにお話しされたのです。

さて、ここに一人の巨人が立っているとします。その傍らには一人の人間が立っています。その眼前には、人間の背丈から水平に見える範囲の風景が広がっています。

すると、人間が巨人の体を一生懸命登り始めました。やっとのことで腰のあたりまで登った時、地面に立っていた時よりも遥かに遠くの風景が見えるようになりました。そしてさらに登り続けて、とうとう肩の上にたどり着きました。最後に姿勢を正して前方を見ると、ついに地平線の彼方まで眺めることができるようになったのです。

これは一見すると巨人や地平線の出る物語ですが、その意味は分かりますね。

「巨人の肩の上に立つ」とは「先人の積み重ねた発見の上に、新しい発見をすること」の比喩(メタファー)です。「巨人の肩に乗る」とも表現されています。最初に用いたのは12世紀のフランスの哲学者、シャルトルのベルナルであると言われていますが、この言葉を有名にしたのは万有引力を発見したアイザック・ニュートンです。彼は科学の進歩について、次のように語っています。

If I have seen further, it is by standing on the shoulders of giants. (私がかなたを見渡せたのだとしたら、それはひとえに巨人の肩に乗っていたからです。)

さて、君たちが鶯谷中学・高等学校で学び続けるのは、そして大学に行くのは何のためでしょうか。それは、学問を積み重ねることによって、少しずつ巨人の体を登っていき、やがてその肩の上に立ち、世の中をより遠くまで見ることのできる力を身に付けるためなのです。

鶯谷中学・高等学校で、スタホ(Study Hall)で、6年間または3年間しっかりと学び、知の巨人の肩の上までよじ登っていきましょう。

巨人の肩は広いことでしょう。きっと全員そろって立てるはずですよ。



▲1658年 ニコラ・ブッサン作